

# 聖化

'87.10.25

日本聖化交友会機関誌

No. 4

## 聖化の実ある宣証を



日本ホーリネス  
教団委員長

尾花 晃

「神のみ心はあなたがたが清くなることである」日本聖化交友会が結成され、着々とその目的に向って仕事が進められています事に對しまして聖化を信じる多くの友人と共に、心から喜んでいきます。

少し古い事で恐縮ですが、葛田二雄先生が、JPCの実行委員長であられた或る日の実行委員会の閉会後、先生が何か思いつめられたかのよう「尾花さん、日本にきよめ派連盟のような団体が出来るとよいのだが、その時には僕は何を置いても参加するが」と、しみじみ言われた事を思い出しています。

日本聖化交友会が、昨年オスワルド博士による聖化大会を開催し、大いに聖化の恵を宣証した事は、神の深い思召しの中にあつた事と信じ、尚々その祝福を祈る者ですが、今年

は、規約を更に実現化し、一歩も二歩も踏み込んで、聖化がクリスチャン一人一人の生活にまで反映されるよう努力して行く事を期待しています。

これは今から約七十年前、日本のきよめ派を組織した中田重治師が、その組織するに當つて發表した宣言文を読み流せない氣持でいるからです。師は「願ひみるに、罪悪外に蔓こり、内に異端跋扈する今日よりはなはだしきはあらず、誠に我々の主張される、又重ねて宣伝し続けんとする救いと聖潔の必要を痛感するもの、天下に我らのみならざるを得ず」と書いて当時のキリスト教界に公表しました。

さて、現在のキリスト教界は、中田重治師が主張した時より、靈的に、成長していると言えるのでし

うか。

牧師の中でさえキリストが神である事を公然と否定したり、キリストの十字祭と復活は單なる物語りとして公言している者が、余りに多い事、その結果、教会が俗化し、信者間にも離婚が許容されかねない事などを見聞します時、日本聖化交友会が今こそ聖化こそがクリスチャンと教会成長の土台であることを内外に向つて、聖靈の力によって、力強く宣証されてよい筈であると信じています。

大会主講師による新刊書(EPA刊第31点)

### 現代に生きるウェスレー

——ウェスレーの教会論・終末論・小論集——

(B6判 240ページ 1,200円)

著者クラレンス・ベンス博士は米国ホートン大学副学長・学監、ウェスレーの研究、把握、適用において卓越した学者。  
[大会中会場にて割引販売]



〈発行〉福音文書刊行会(EPA)

東京都千代田区神田駿河台2-1 OSCCビル1GM

〈発売〉いのちのこば社・伝道文書販売センター

# 聖化とその現在の課題

日本聖化交友会の展望も含めて！

## ■出席者■

飯塚俊雄	日本イエス・キリスト教団保谷中町教会牧師
伊藤昭吉	チャーチオブ・ゴッド教団川崎南部教会牧師
岸田 馨	蒲田シオン・キリスト教会牧師
薦田公義	イムマスエル綜合伝道団聖宜神学院教会牧師
野田 秀	フリー・メソジスト教会桜ヶ丘教会牧師(司会)
藤本栄造	イムマスエル綜合伝道団高津キリスト教会牧師
堀井美吉	日本ホーリネス教団背梅恵みキリスト教会牧師

はじめに

去る四月二一日(火)午後三時から、OSCCを会場として日本聖化交友会主催の座談会が開催された。「聖化とその現在の課題」などについて話し合われたが、これは日頃教会形成と牧会に携わっておられるきよめ派の先生方のお考えやご意見を率直に述べていただくとの企画であった。テーマはおおよそ次のようなものである。

① 聖化の恵みは、現在一般にどれくらい確信と熱心をもって伝えられて

いると思うか。

② もし課題があるとすればそれはどんな点であり、またその打開のためにどうすればよいか。

③ 若い伝道者や青年たちに、この恵みを伝達して行くのに、困難はあるか。

④ 現代日本の現実に対する教会の使命と対応において、この恵みの持っている意味はどんなところにあるか。

⑤ 「日本聖化交友会」の使命や将来について、どう考えるか、などであった。

なお、内容は編集の都合で一部を割愛させていただいたことをお断りしておく。

## 聖化の恵みと確信ある宣証

飯塚 この点については、必ずしも熱心で確信ある宣証がなされているとは思えません。その魂が救われた段階で、どういう救われたか、どういう育てられたかをしたかということに関係あると思う。三児の魂百までというように、自分で経験したことがなければいくら牧師になっても、伝えられないということがあるのではないだろうか。

岸田 聖化については、強調点に多様性があると思います。一つの流行として講解説教が強く言われてきました。

説教の計画があり、聖書全体を語る

いうように変化しているのではないのでしょうか。広範囲のものを消化しなくてはならないということで、かつて見られたほどの深めの強調点が、今はちよっと薄れているのではないかという印象をもっています。

飯塚 何を話してもどのつまり深めだという説教から、聖書全体を語らなくてはということになり、その結果、深めのメッセージが薄められたということなのでしょう。

岸田 薄めたと言うのではなく、私の印象では、戦前の教会のなかには、非常に鮮明な深めの強調があったと思うのです。それが今は強調する頻度などが少なくなっている面があるのではないかということです。意識して強調しなければ、薄められてしまうという可能性があるのでしよう。特に超教派の交わりのなかでは、どうしてもこの点が薄められてしまうということがあるように思います。

藤本 私たちの団体の年会ではいつも伝道者の講演や研修会というところの点に帰って来ています。折あることに互いに刺激されなくてはならないのです。堀井 私どもの団体でも、聖書全体を説くという講解説教が強調されており、主題説教はかけをひそめているというか、比率が少ないようです。私自身の

地域教会の経験からみて、超教派の活動のすばらしさはいままでもないのですが、各個教会でホーリネス説教が明確にされて信仰がきちんとされていると、聖化の強調点が弱体化されてしまうようです。また、教会開拓のときは、いろいろな信仰の背景の人が教会に参加してこられるわけで、聖化がきちんと伝達され整理されていないとある時点で彼らの持っていた過去の信仰思想が提供されてくるという危険もあります。

**野田** 講解説教に代表される、聖書全体を説いていかなくはということと、超教派の動きが進んだというようにないくつかの点により、心ならずも強調点が薄められたということなのでしようが、座談会の課題の第二の点に進んでいただけだと存じます。

### 聖化の課題とその打開

**伊藤** 私は、はじめはきよめめについて反発していたが、同室のきよめめられた人格にふれて神学校の寮で個人的にその恵みを体験した。それは聖別会で受けたのではなかった。それから、教会内でまず教理的に語るようになり、次に実際生活において実を結ぶという面を指導するようになった。そこできよめめには教理的だけでなく、転機面とそ

の後の生活実践での継続面との両面をもつていかなくはならないということとを私たちは強調している。また、大切な経験をしているのだから、それが神学的に展開されることが必要だ。もう一つは、きよめめの後の指導のプログラムをもつということ、この二つをこれからの課題としている。また、きよめめの本は一般的に言ってむつかしいとの評を聞いているが、いかがでしょうか。

**薫田** 日本のきよめ派の中で、教団のリーダーの中と地域にある教会との間に、聖化を強調することのズレ、相違はないだろうか。また、われわれのいっている聖化の恵みはこれだというアイデンティティをもっているだろうか。外からある一つのセクトのように見られやすいなかで、われわれの伝える聖化の恵みをしっかりと捉えていないと熱心さと確信がなくなるのではないかと。そこで私の心にかかっている三つの点として

- ① 御言に聖化の恵みの基礎が置かれて、はつきりくらえているだろうか。聖化が聖書にあるなら、御言に基づいて伝えていかなくはならないと思う。
- ② 日本での聖化の強調ということ。日本人が聖書に基づいて本を書くようにならないと、日本人に分かるように

ならないし、聖書に基づくことによつて西洋的な必要なものはずされていくとき、日本人としてのよいものが考えや表現にててくるのではないかと。

- ③ それに関連して神学と教理的なまとめ方が、その中に転機的面とその後歩みの面とを含めて、もう一回見直されていく必要があるのではないかと。この三つの点において、「これが私たちが受けて伝えている恵みである」ということが明確化されるなら、運動が出て来るのではないかと。

**野田** 戦後、出版物が増加し、一般信徒に若い人にも広く読まれるようになっていた。また、きよめ派以外の人もきよめめについてきかれるような時代になってきている。そんな時代的な難しさのなかで、若い人たちにおお確信と熱心をもつて聖化を伝え、確信にまで導いていく大切さと必要があると思つています。

**伊藤** ホーリネスを扱うとき、聖別会、修養会とかのみで語られており、日常性の中では、例会などでどのように、どの程度語られているのかということ、私の疑問である。また、ホーリネス信仰を持った者たちの教会観があるはずで、ホーリネス陣営における教会成長論などが神学的にも展開されていってよいではないか。

**飯塚** 教会形成においても、きよめめ問題ぬきにしては、真の教会形成はないのではないかと。教会員がキリストと共に葬られたということ、肉性、世俗性とセパレートした信徒がつくりあげられていかなくと人が増える問題が増えて困るのではないかと。ある人が開拓期と成長期の教会の違いは、教会の中にあの信徒を見なさいという人が一人でも出来れば、開拓期は終わつていくといったが、これは当たつていないと思う。そのような信徒をもつて教会を形成し、キリストに古き人が死んでいくところから御霊の満ちしをいただいている人をつくるのが教会の課題ではないかと思う。

**薫田** わたしも聖別会だけがきよめめのパロメーターではないと思う。聖別会だけでは、方程式化されたきよめめになつてしまふ。潔めなしの福音はない。教会で救われた魂は潔めを求めはじめるので、絶えず講壇から話られるということが大切だ。聖別会はホーリネスの恵みを伝える専門の時として、そこで潔めをシャープに打ち出す場が出来るのではないかと。

**岸田** もう一つきよめめの問題について、画一的なものを求めようとすると思ひにぎくしくした関係になると思ふ。強調点の違いがあるのだから、狭さを



飯塚俊雄



伊藤昭吉



高田公義



藤本栄造

強調することがきよめであるかのようになつてはいけない。今は教会の内外に深い生活が求められている時代ではないだろうか。

飯塚 時代のことが出たのですが、潔めは他の潔め派以外の教派でも求められているということを最近経験している。これからきよめが福音陣営の課題になつていくように思う。とても大切な時代にJHAが生み出されていると思う。

堀塚 私もある潔め派以外の、むしろきよめに反対する団体からきよめについて話してほしいと招かれたことがある。やはりきよめが求められていることは事実です。

岸田 本来ご聖霊のお働きですから、教会がきよめられたいと成長もないし前進もありえないということ。個人のクリスチャン生活でも、信仰を持ってからスタンダードになる信徒や、クリスチャン生活の概念がないと、結局自分の判断でこれ位いいのではというように低い水準でしか生活出来ない

い。結果的にきよめと、きよめられた生活ということがわからないまま、いつまでも求道者のようになってしまふ。

堀井 本質的に聖書の中心メッセージはきよめである。ですから、歴史的、伝統的な流れの中にある私たちだけの課題ではない。全教会としての課題としてきよめが求められていくということまで、ビジョン、方向性が確立されていっただらばいい。教会が開拓されていく途上においては、きよめの経験者が起こされていかなければ、その教会の大山に直面したとき、崩れていくのではないか。

### 若い伝道者や青年たちへの伝達

堀井 青年たちに潔めを語るといふ課題ですが、きよめが必要であるということに一人一人の器がみちびかれていくことが必要だ。過去に見られたように、素朴で力のある救いと潔めのメッセージが、全教會的レベルのなかで必要です。そこに応答者があるのではな

ン・ウエスレーに学ぶ会で、伝統的に受け継がれた信仰形態を維持するともにも前向きな方向で展開されていくと

岸田 ホーリネス教会では、中田先生と内村先生が一緒になって再臨運動がなされた。再臨の備えとしてのきよめが強調された。

堀井 きよめが再臨との関係で強調されるのが弱くなっているように思うが、皆さんはどう思われますか。

藤本 何か事があると、問われることは、きよめの体験は確かだったかということではないか。昔は、あまり細かな指導はなく、箒を持って折りに行くことが多かった。今は指導も行き届き理解することが出来るが、明確な体験が希薄ではないかと思う。若い伝道者は、いろいろよく知っているが、体験的な面に物足りなさを感じる。

野田 それは一体何なのか。沢山読んで知っている知識のせいでしょうか。確かに物足りなさがありますね。

堀井 沢山の本がありながら、恵みの手段が希薄になりつつあるという危険性があるように思う。教理的に確認していても、恵みの手段が欠けているということではないだろうか。

藤本 世代の違いではないだろうか。「聖霊に満たされるまで祈ってこい。」

ということがいいにくい、難しい時代ではないか。

伊藤 大学のクラブは嫌われ、同好会が好まれるということや、汗をながすのはキラリ、和気あいあいを求めるということを読んだことがあるが、今の人は理解が先になりやすい。私たちは預言的に扱われたので、理解させることより、自分の体験に合わせるように導くからだろうか。

飯塚 その反面、厳しさのなかを通つても「強くしてください」と求めている面もある。写真が焼かれるために暗室が必要のように、悔いなくおれて、ひとりぼっちで扱われていくことが必要なのではないか。「きよめのために時間をとれ」の賛美があるがそのようにすべきだ。

高田 しばしば、まだ自我性が生きているのにきよめられているというあかしがあつてとまどう。知識があることがもう経験しているような気になつてしまふようだが、実際は違う。人間の側からの献身があつても、神の側から火が下つたというあかしがない。火が下つてしまったことになってしまうのではないだろうか。

伊藤 転機の後には恩寵の手段があれば、成長が早く効果的である。転機と恩寵の手段がすり替わってしまつてきよめ

だと錯覚してしまうようなところがあ  
るのではないか。これは車の両輪のよ  
うに、どちらも欠いてはならない大切  
なものである。

岸田 転機のおとの継続ということ、  
神のまに日々空しくなつて信仰をし  
ていくという姿勢が少ない。若い人た  
ちの間では自分の体験というより、最  
後に聖歌をうたつてそれで体験したこ  
とにして満足してしまうようなことは  
ないだろうか。きよめが浅薄になつて  
いるように見える。自分で行き詰りの  
経験がないまま他人の原経験を聞いて  
自分もそうなることにしてしまうと  
いうような傾向はないだろうか。  
伊藤 聖別会できよめの喜びを心いっ  
ぱい賛美するようにしたい。

飯塚 最新の若い人の好む歌には、贖  
いがないし、きよめがないようだ。そ  
れも若い人への一つの課題になるのか  
もしれない。

薫田 体験もあれば歌も出るのではな  
いか、きよめのトラクト、きよめのコ  
ーラス、賛美がもつと出来てよい。  
飯塚 きよめが特殊な経験、霊的エリ  
ートではなく、わたしのようなもの  
さえと感恩の思いと真にへりくだつた  
働き人となっていることが、若い人に  
拒絶反応を起こさせるか渴きを起こさ  
せるかの違いとなつていくと思う。わ

れわれが高度なことをいつているだけ  
に、そのぶん彼らの興味と関心と批判  
も強いと思う。だから、私たちの責任  
でもある。いいものはいい。いいもの  
を示せばついてくる。

野田 時間も大分進んできましたが、  
自然に第四あたりになつていきます。統  
いて第五のテーマを含めて頂き、また、  
出版のことなども話していただけたま  
すか。

#### 日本の教会の使命とJHAの将来

堀井 JHAの組織的なことについて  
伺いたい。私は、現在関西にあるジョ  
ン・ウエスレーに学ぶ会とJHAの両  
方に入会しているが、両方の位置付け  
をどのように受け止めてよいのか考え  
ている。JHAが今後どのような方向  
づけをもつて進むのかを知りたい。

岸田 私も両方に入っているが、今す  
ぐ組織的にどうこうということとは考え  
られない。いろいろな話しはしている  
が、JHAは組織体というよりは、運  
動体として存在していくものであろう  
から、両者への二重の加盟については、  
個々におまかせするほかはない。今後  
各地域ブロックができて、ブロック毎  
にそのような問題が処理されていった  
らよいと思う。EPAとも組織体とし  
ての結合ではなく、実質的な働きで協

力しようとしている。EPAゼミなど  
協力できるものは一緒にしていく方針  
である。特に組織力を強調してはいな  
い。

飯塚 きよめなしに教会形成はない。  
教会の本当の力は、会員一人一人が力  
ある証人として実力証明になつていく  
ことが必要ではないか。そこでJHA  
に個人的、団体的色彩でなく、神の小  
羊から流れる清い流れが、全国津々浦  
浦に伝えられていくという運動の純粹  
性があるといい。

野田 時代的に神の働きのなかで、信  
じることが求められているときに、ホ  
ーリネスが特殊な何かではなく、聖書  
のメッセージなのであることを証して  
いくことがJHAの使命となるのでは  
ないか。

薫田 JHAの使命と将来ということ  
では、

① きよめ派内でのこと。  
② きよめ派の外の羊に対してのこと  
③ 日本聖化交友会が、世界の中での  
グローバルな交友が出来ていくという

こと。救われる福音から、教会の中に  
きよめ体験を伝えていくという使命、  
暗中模索をしている教会に立証してい  
くこと、などでしょう。

藤本 地域教会にいとやかなかきよ  
めの説教を聞く機会がない。JHAが  
講師を派遣して聖会をもつことなどに  
今後手をつけていくことは必要ではな  
いか。

岸田 これには両面があるように思う。  
こちらから聖会を開くとともに、最終  
的には各個教会でその先生がきよめを  
扱っていかれないと基本的には解決に  
ならない。出版のことですが、鮮明な  
よいきよめの説教集や聖化のすばらし  
さを示す信徒の証しなどが、出版され  
ていくとよい。その点EPAの使命は  
大きい。一般のクリスチャン出版社で  
はきよめに関する本が少ない。本田師  
の出された本にきよめがあかしがある  
が、これからも良いきよめの証し集が  
あるとよい。教職も含めて、きよめの  
体験集など整理すれば、まだあるの  
はないかと思う。



岸田 肇



野田 秀



堀井 美吉



日本聖化交友会

# 第2回 聖化大会

10/29・30 (木金)



会場 日基教団 淀橋教会

米国ニューヨーク州・ホートン大学の学監、副学長

講師・クラレンス・L・ベンス博士

## ■セミナー

クラレンス・ベンス博士(ホートン大学学監)

テーマⅠ「聖化—クリスチャンの目標」

Ⅱ「御国—教会の目標」

## ■講演Ⅰ

畑野基師(岸野里教会牧師)

テーマ「ジョン・ウェスレーと教会(牧会)

その現代への適応」

## ■講演Ⅱ

竿代忠一師(インマヌエル船橋教会牧師)

テーマ「聖潔と倫理」

## ■聖会

クラレンス・ベンス師 通訳・増田蒼雄師

第1夜「信仰生活の亀裂」

第2夜「大いなる救い」

野田 日本人の書いた説教集、証しが出来ることは賛成です。

飯塚 きよめの本の難しさが問題になったが、明治以来の日本語の難しい表現の影響があるのではないか。易しいことが大切だ。

堀井 E.P.A.の「実践的メソジズム」はわたしにはすばらしくよかった。あ

飯塚 今が難しい問題にして「ウエスレー神学の実践問題」となっている。伊藤 出版の場合、対象をどこにおくかが問題である。きよめにも神学と論

理性がある。「きよめ派には神学がないわけではない」と車田先生がいわれたが、信仰生活は現実だから、具体的な生活のメソジカルな面が必要だ。これからのホーリネスは、昔のような見方で神学がない、感情的だなどといわれるのではなく、超教派的でどこにでもいってどこでも受け入れられていくようになるべきではないか。今のよう

うになるべきではないか。今のようには、ホーリネスを信じているグループが、そうでないグループと色分けが鮮明さ

大きいのではないだろうか。岸田 聖化と同時に、御霊の満たしと聖霊体験とを誤解し混同しやすい。これはいずれ取り扱われなくてはならない。野田 大分話題に花が咲いてきたところですが、時間なのでそろそろ終わりと致します。どうも有難うございました。

### 総務委員会より

この夏、ホーリネスの群、イムマヌエル綜合伝道団の聖会御用のために、CHA(クリスチャン・ホーリネス・アソシエーション)の前事務局重、D・ソルター師が来日され、歓迎レセプションに日本聖化交友会からも数名が参加しました。その折ソルター師は、CHAの歴史的な背景とともに、聖潔を軸としての交わりの重要性を語ってくださり、同会への参加を積極的に勧めてくださいました。来年の四月には、米国のポートランド市において第百二十回大会が開催されます。総務委員会としても、日本からの参加者を期待しております。

日本聖化交友会も、第二回聖化大会を開催できますことを感謝しておりますが、このような大会が日本全国の各地で開催されることを願っております。そこで総務委員会では、教派および超教派の聖会、または聖別会がどのような形で行なわれているか、その地域的な実態を把握するために、アンケート調査をさせていただくことになりました。近々に、文書を作成し、ご依頼いたしますので、よろしくご協力のほどをお願いいたします。